

選択的評価事項に係る目的

選択的評価事項A「研究活動の状況」に係る目的

本校では「科学技術に夢を託し，人類愛と郷土愛に目覚めること」，「国際性豊かで世界に羽ばたく気概を持つこと」，「情報化社会の最前線で活躍すること」を教育理念に掲げ，これを実現するために，本科においては「広い視野を持ち，自立心と向上心に富み，教養豊かで心身ともに健康な技術者の育成」，「基礎学力を身に付け，創造力，応用力，実践力を備えた技術者の育成」，「国際コミュニケーション能力と先端情報技術を駆使する能力を備えた技術者の育成」，「工学技術について倫理観を有した技術者の育成」，「教育研究活動を通じて社会へ貢献できる技術者の育成」を，また，専攻科においては，「得意とする専門分野をさらに深めるとともに，異分野を理解し，複数の分野にまたがった思考力」と「社会の要求するテーマを創造的に調査・企画・設計・計画し，継続的に解析・実行・改善できる問題解決能力」，「的確な日本語と国際的に通用するコミュニケーション能力」，「先端情報技術を駆使して専門分野のプログラムを構築する能力」，さらに「多用でグローバルな視点の倫理的判断ができ，技術者の社会的責任を理解して地域貢献する能力」を備えた技術者の育成を教育目標としている。

このような教育理念及び教育目標を実現するにあたって，教員自らが研究活動を通して社会と関わることで担当する研究分野についての認識を深め，またこれを通して教育的資質を培うことは，教員として欠かせない職務であり，さらに，独立法人化を期として業務に加えられた「地域への貢献」を遂行する上でも，地域産官学連携による共同研究等は重要である。そこで，本校における研究活動は，次の事柄を目的に実施する。

- (1) 積極的な研究活動を通して本校教育に関連する技術や学問の動向を常に把握し，教育内容を時代に即したものに改善すること。
- (2) 地域の企業や公共団体と共同で行う研究活動とその成果を公開することで地域との交流を促進するとともに，これを通して地域と本校が共に発展する道を探ること。

これらを実現するための具体的方策として，以下の事項を実施する。

- (a) 本校教職員に対する科学研究費補助金に関するガイダンスの開催ならびに民間の研究助成制度の周知，さらに企業等からの技術相談の紹介などを行なう。
- (b) 研究を通して生み出された成果の知的財産化を促進し，教育・研究活動推進とその環境整備のための資源を獲得する。
- (c) 教員の研究分野や研究成果，新たに獲得した知的財産などを広く社会に公開し，地域産業界や地方公共団体との共同研究，受託研究を促進するとともに，地域との交流を深める。

上記の共同研究・受託研究を実施する基盤として，また研究成果等を地域へ普及する場としての地域共同テックノセンターの設置を推進する。